

# 神 輿 小

豊受大神宮御正宮御棟持柱  
小川町

三重県神道青年会報 第30号

# ◆ 定例総会 ◆

平成十四年度定例総会が四月十七日、神社庁会議室にて内保会長以下役員、会員二十四名、来賓三名の出席にて開催された。

開会儀礼の後、会長挨拶、来賓の片岡神社庁長・西井神社庁理事、岡本氏子青年協議会長より祝辞を頂戴し、その後中里副会長を議長に選出し議事へと移った。

まず十四年度会務報告、会計決算報告、会計監査報告、会則の一部変更が上程され、夫々承認された。次に内保会長任期満了に伴う役員改選が行われ、新会長に中野副会長、監事には内保会長・葦津元副会長、副会長には音羽理事・平野元副会長が指名され、各地区よりブロック理事が選出、会長指名理事が指名され、新役員を代表して中野新会長より挨拶があった。続いて十五年度活動方針案並びに事業計画案、同

会計予算案が審議されて承認を受け、定例総会は滞りなく終了した。(原記)



# ● お宮の子供会 ●

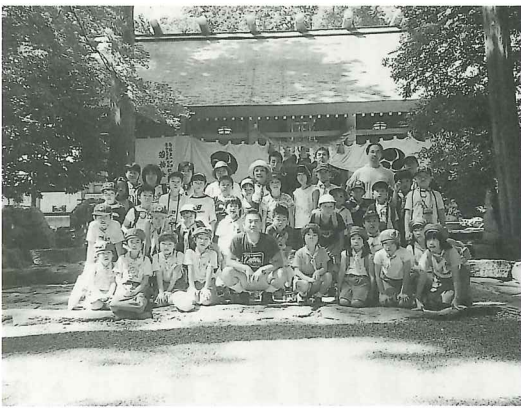
八月二十二日・二十三日の二日に亘り、鈴鹿市の椿大神社に於いて第二十六回お宮の子供会が開催された。両日とも好天に恵まれ、夏らしい陽気の中、参加者は神職の子弟の他、護国神社のボーイスカウト・ガールスカウトのメンバーも加わり、子供だけで三十四名を数えた。

初日、正式参拝の後、山本宮司より「自然の豊かな神域での共同生活により、日常生活では得ることのできないものを手に入れて下さい」との挨拶を頂いた。開会式の後、子供たちは班ごとにわかれ、「無敵十人衆」や「スターグループ」などユニークな名前をつけ、班旗の



作成に取り組んだ。その後オカリナ作りや、キャンプファイアで用いる薪拾いを行った。夕刻境内の滝にて行われた禊では、初めての事で皆緊張していたが、雄叫びも勇しく全員が禊を体験した。そして夜のキャンプファイアでは各班の余興や歌などで楽しみ、親睦を深めた。

二日目は体験学習として茶室鈴松庵にて茶道体験を行った。ほろ苦いお茶の味に複雑な顔をしていたのが印象的であった。他にも蚊取りブタの絵付けや神話のアニメビデオ鑑賞、班対抗のゲームなどで楽しく過ごし、閉会式にて全員に修了証が授与され、二日間の日程を終了した。(佐記)



# 〈九月〉

二〇三日 親睦事業有志飛驒行き  
八名参加 高山市内  
一〇〇一日 神道青年東海地区協議会  
及び教化研修会

二〇日 一〇名参加 岐阜  
北部ブロック研修会

二五日 二一名参加 多度大社  
敬神婦人連合会定例総会  
助勢奉仕 神宮会館

一四名奉仕 神宮会館  
第四回役員会  
一八名出席 神宮会館

# 〈一〇月〉

二七日 三役・委員長会  
九名参加 神社庁

三〇日 三重県神社関係者大会助勢奉仕  
一〇名奉仕 神宮会館  
第五回役員会

一七名出席 神宮会館  
親睦事業 笏作り  
二六名参加 神宮育成会館

# 〈一一月〉

一七日 三役・委員長会  
九名出席 神社庁  
二七日 第六回役員会  
一五名出席 伊勢市内  
忘年会 伊勢市内  
三〇名出席 伊勢市内

# 〈一二月〉

二日 神宮大麻頒布促進運動広  
報活動  
八名参加

四日 西桑名ネオポリス  
神道青年東海地区協議会

### ◆ 新職員交流会 ◆

七月四日、県内神社の新職員(神職・巫女)十六名を迎えて恒例の新職員交流会が行われた。

本年度は、三重県営サンアリーナに於いて、「インディアカ」という、バドミントンの羽を大きくしたような玉を使い、バレーボールの要領で競技するスポーツを行った。初めての試みにもかかわらず、各チームともすばらしい試合を行い、参加者全員が打ち解けることができた。

激しい試合の結果、ブロック優勝は北勢チーム、チーム優勝は、平野副会長率いる北勢第一チーム(遠藤・笹原・伊藤)が獲得した。インディアカ終了後は、二見興玉神社参集殿に会場を移し、懇親会となり、初めて競技を行ったインディアカの感想や今後の抱負などを、出席者全員が和やかに語り合い、楽しい交流会となった。



(赤塚 記)

### 神道青年全国協議会 夏期セミナー

本年も神青協夏期セミナーが、八月二十八・二十九日に本社本庁に於いて開催された。三重県神青会からは五名が参加した。

今回のセミナーの主題は、「男女共同参画社会基本法」を考える。男女の画一的性別解消を目指す「ジェンダーフリー」と呼ばれる思想は、近年制定された「男女共同参画社会基本法」を通し、我が国の美はしき伝統文化を蝕む方向性で浸透しようとしている。この危険思想は、性の開放により、家族の解体を推進し国家を崩壊させようとする共産主義者・マルクス主義者達の策略であり、多くの人々が、その危険な本質に気付かないまま日々を過ごし、知らぬ間に片棒を担がされている。

セミナーは三回の講演会とパネルディスカッションで構成され、第一講は明星大学高橋史朗教授の「『ジェンダーフリー教育』条例制定の現況」、第二講は高崎経済大学八木秀次助教授の「『男女共同参画社会基本法』の問題点」、第

三講は山谷えり子衆議院議員の「真の男女共同参画社会とは」と題し、この危険性を秘めた法律についての講演を拝聴した。最後のパネルディスカッションでは、藤山会長をコーディネーターとして高橋、八木両先生と本社本庁井澤教化部長に研修生から多彩な提言が出された。

ジェンダーフリー思想は、政府見解から逸脱し、地方条例として一人歩きが始まっており、小学校からの行き過ぎた性教育、結婚というシステムの疑問視、フリーセックスの推進、性的自己決定権等々の常識から外れた教育が実際に行われている。自治体による危険性を示し、改善して行かなければならない。神職として、日本国民としてこの危険思想には常に目を光らせ、良識ある声としてそれぞれ地域で積極的に活動すべきである。



(矢野 記)

### 神道青年東海地区教化研修会

九月十一日、十二日の二日間、岐阜県の当番で「鵜飼」(日本)の伝統文化を考えるをテーマに開催され、中野会長以下十名が参加した。第一研修は「鵜飼の歴史」について後藤太計先生に講義頂いた。鵜飼は記紀に遡る程その歴史は深く、長良川では約千三百年の歴史があり、古風な装束と共に時代の交遷の中で受け継がれてきた。明治二十三年からは宮内省に属し、現在は六人の鵜匠が宮内庁式部職鵜匠という地位で伝統を守り伝えている。

第二研修は杉山健二先生に現在鵜飼の置かれている立場や意義について講義頂いた。実際に鵜を使つての鵜飼漁法の説明、長年の鵜匠としての経験談や、さらには次世代にこの鵜飼を伝えていくための責務など、先生ならではの貴重な講義であった。

講義を終えてからは、屋形船に場所を移して実際に鵜飼漁法を見学した。伝統装束に身を包んだ鵜匠が「ほうほう」と声を掛けながら鵜を自在に操り鮎を狩る様は、見る者を幽玄の世界に誘い、燃え



さかる篝火に古来よりの形容しがたい伝統の重みを感じた。二日目は親睦行事の為、長良川交通公園ボウリング場に移動。参加者は大いに遊び、語り、親睦を深めた。今回の研修は「日本の伝統文化を考える」というテーマに相応しい研修であった。鵜飼の、美しい日本の伝統文化を守る姿、次世代に継承すべく、その重要性と方向は第六十二回神宮式年遷宮を迎えるにあたって、我々が日頃より社頭奉仕に励む事、御遷宮を広く伝えていく目的を十分に再認識させるものであった。(佐野 記)

### 親睦事業「笏作り」

十月三十日、神宮の育成会館に於いて、今年度の親睦事業である「笏作り」が行われた。

これに先立ち、九月二・三日の両日、内保・葦津両監事以下八名の有志により笏の材を調達の為、飛騨高山へ向かった。笏材として高名な飛騨位山の櫟(いちょう)を使おうとの考えからである。

九月二日午前十時に猿田彦神社を出発。所々の地点で合流の後、現地に向かい、午後五時頃、宿泊地である下呂温泉「ホテルくさかべアルメリア」に到着。一日目は美酒にて疲れを癒した。

二日目は午前九時頃より高山へ向かい、そこで神明奉仕の傍ら一刀彫も手掛けておられる旭ヶ丘八幡神社村上貞男宮司のもとを訪ね、笏及び笏作りについて事細かに説明を頂いた。

笏材の現況として位山は九十%が国有林であり、その材は手に取りにくいこと、また、国産の櫟自体がなかなか手に入らず、殆どが北朝鮮や中国産になっているとのことであった。他にも笏を持つ人の背丈と笏のバランス、木表・木裏、柃目・板目について分かり易く教えて頂き、一同多くの事を学んだ。最終的に位山の貴重な櫟の材を分けて頂き、さらに村上宮司の貴重な笏を希望者に分けて頂き一同は帰路についた。



笏作り当日は二十七名の会員が参加した。先ず高山にて学んだ笏の事につき、録画ビデオを見ながら一同知識を得た。笏の作り方を聞いた後、銘々が気に入った材を手に取り作り始めた。今回の笏作りはヤスリにて材を削るという作業で、各々が相談し合い、また、競い合い、親睦を深めながら、好きな形に仕上げていった。会員全員が自分だけの笏を作り、大変満足していく会となった。尚、高山迄のツーリングは会員同好会活動の一環としての企画である。(稲熊 記)

五日 三名出席 金神社  
敢國神社例祭助勢奉仕  
五名奉仕

七日 西桑名ネオポリス  
神宮大麻頒布促進運動  
三名参加 鈴鹿市桜島町

七月 神宮大麻頒布促進運動  
三名参加 鈴鹿市桜島町  
(平成十六年一月)  
二七日 第七回役員会  
一四名出席 川梅  
二六名参加 川梅

八月 建国記念の日啓発活動  
一六名参加 津駅周辺  
二六・二七日 神青協中央研修会  
二二名参加 大阪市内

九月 神宮大麻頒布実務担当者  
研修会  
二名参加 神宮会館  
一一日 三重県護国神社合祀祭  
七名奉仕

一三日 氏子青年協議会・神道青年会合同研修会  
八名参加 上野市内  
一八日 第八回役員会  
一五名出席 神宮司庁

神宮神道青年会・県神道青年会合同研修会  
一七名参加 神宮司庁

### 神宮大麻頒布促進運動

従来西桑名ネオポリス一ヶ所での活動であったが、同地での活動は早十年以上を経ており、また一定の成果を挙げていると思われるので、本年度は同地に加え鈴鹿市においても行い、二ヶ所での活動となった。それぞれの活動の報告を申し上げる。

西桑名ネオポリスでの活動は、十二月七日(日) 八日(月)の二日間にわたり神青会員十二名、神宮研修所学生七名が参加し行われた。初日は先ず金井神社(種村睦宮司)に集合、事前説明の後神宮大麻と金井神社の御神札、修祓用の大麻と地図を手に、ネオポリスに移動、活動を開始した。

神青会員と神宮研修所学生の二人一組に分かれ、各班割り当てられた地区へ出発した。毎年受けられている家庭の中には「あちらのお宅には行きませんか」と声を掛けて頂いたり、また新たに受けて頂く家庭もあつたりと励まされることもあつたが、氏神・氏子の意識が基本的に薄い新興住宅ということもあつて、断られる家庭が多かった。また留守宅が多く、その

際は大麻の広報誌(チラシと趣意書)を投函して対処した。



二日目は神青会員のみの活動。

月曜日ということもあつて留守宅が多かった。しかし前日留守だった方から連絡を受け頒布に伺うなど、二日間では前年並みの成果(百二十四世帯頒布)を収めることが出来た。尚この頒布活動に先立ち十二月二日(火)、中野会長以下役員八名により、大麻頒布を行う旨のチラシを該当地区に約二千枚配布した。(菱川 記)

十二月七日(日) 私が奉職する鈴鹿市の彌都加伎神社(遠藤龍夫宮司)の氏子区域鈴鹿市桜島町にて神青会員三名、神宮研修所学生三名の計六名により神宮大麻頒布促進運動が行われた。この区域内

では、従来一部の、毎年神符を受けて頂いている家庭にのみ頒布を行っていたが、本年は新たに神道青年会の活動として大麻頒布を行うにあたり、区域の全戸を対象に、神宮大麻と氏神である彌都加伎神社の神符を受けて頂くよう活動を行った。

この桜島地区も西桑名ネオポリス同様新興住宅地であり、毎年受けて頂いている家庭は快く受けて頂けるが、初めてということもあり、新規の家庭では戸惑いもあるようで、「正月に神社に行きます」と断られたり、神社に確認の電話が入ったりということもあつた。その他、他宗教に入信していると断る方も見え、お伺いしてお受け頂いた家庭は全戸数の五分の一程度であった(六十五世帯頒布)。今後これを機会に、奉務する者の責任として、一家庭でもお祀りする家が増えるよう努力していきたい。また今回は神宮研修所の学生に助勢頂いたが、この活動を通して、大麻頒布の現状、受けて頂くことの難しさを認識した上で、なおかつ頒布を行うべき神職としての使命感に触れて頂いたことと思う。(遠藤 記)

### 神宮研修会のご案内

平成十七年三月二十三日(水)、二十四日(木)に、神青協神宮研修会が三重県神道青年会の担当により伊勢で開催されます。この研修会は、神職としての原点に立ち返る為、十年毎に伊勢の地で開かれており、例年の中央研修会とは内容が大きく異なります。

今回は平成二十五年度の次期式年御遷宮を見据えて開催されます。来年五月には、御遷宮諸祭の嚆矢である山口祭・木本祭が斎行され、いよいよ御遷宮への機運が高まっています。この時にあたり我々青年神職は斯界の尖兵としての自覚を再認識し、信頼と結束を強めてゆかねばなりません。お木曳・お白石持ちなどの諸行事を始め、御遷宮の奉賛活動等、神宮のお膝元の神職としてなすべき事はたくさんあります。

今一度御遷宮について知識を深め、伝統文化の継承を省みる良い機会となるはずです。

皆様のご参加をお待ちしております。(宮田 記)

### 神青協中央研修会

神道青年全国協議会の中央研修会が二月二十六日、二十七日の両日、『伝統文化の力』(伝統芸能とその継承)をテーマに、ホテルニューオータニ大阪に於いて、四百八十四名参加のもと開催され、三重県からは中野会長以下二十一名が参加した。

初日の第一講は、タレントであり追手門学院大学文学部講師の浜村淳先生による「上方の文化と芸能」と題する講義で、『大阪人はケチではない』という第一声から始まった。元来「上方」は商人気質のユーモア溢れる町で、そこから生まれた「しゃべり」などにより、伝統深く魅力の多い文化が生まれたことを学んだ。

第二講は重要無形文化財保持者(人間国宝)である桂米朝先生と、ご子息の桂小米朝先生、そして浜村先生による「上方落語」についての鼎談であり、上方落語の復興や継承、苦勞話、笑いを取る講話のコツ等をご教示頂いた。続いて米朝・小米朝両先生による落語上演があり、その後の懇親会では、全国の青年神職と交流を深めた。

二日目は人形師の吉田文吾先生、大夫の豊竹呂勢大夫先生、三味線の竹澤宗助先生による「文楽」の講義、実演を受けた。「文楽」は、三人の形遣いと、関西のしゃべり口調により登場人物の気持ちを伝える義太夫節、そして三味線の三者により表現される洗練された伝統芸能である。その実演を間近に観て、「文楽」の素晴らしさに引き込まれた。

この二日間の研修で、伝統文化は日本の社会を支える源であり、またそれを未来に継承してゆく大切なことを学んだ。

来年はいよいよ伊勢の地で、勢の地にて、神宮研修会が開催される。最後に壇上より、その点につき全国の神青会員に向けアピールした。



(濱中 記)



初日は護国神社のボーイスカウト、ガールスカウト二十名も参加し、まず三重県護国神社で正式参拝。その後近鉄津駅に赴いた。電

### 建国記念の日啓発運動

二月八日(日)、九日(月)の二日間、建国記念の日啓発運動を実施した。建国記念の日をお祝いする意義を説明したチラシと「祝祭日には国旗を揚げましょう」と記した花の種を添え、総数二千袋を近鉄津駅西口付近の街頭にて配布した。

今回は中高生を対象とし、これからの我が国を支えていく若い世代に、もっと国を大切に思う心と、日本人としての自覚を高めてもらうよう実施した。

車またバスの利用者に対し「皆さんで建国記念の日をお祝いしましょう」と元氣よく呼びかけ、一人一人にチラシと花の種を手渡した。通行者の皆さんは快く受けとって下さり、約八百袋を配布した。二日目は会員十三名が参加。平日の夕刻ということもあり、学校帰りの中高生が多く行き来する中での活動となった。

両日とも「建国記念の日をお祝いしましょう」と差し出すと、皆さん理解をして頂き、受け取って下さった。中には「すばらしいことですね」とお声がけ下さる方もあつた。今回の活動をきっかけとして一人でも多くの方が自らの国に思いを寄せてもらえたら幸いである。(佐奈 記)



### 氏子青年協議会との合同研修会

三月十三日(土)、上野市に於いて氏子青年協議会との合同研修会が開催された。氏青側は久保会長以下八名の会員が参加した。今回は氏青側の主催にて行われ、テーマは『郷土の歴史・文化の研究』で、内容はウォークラリー形式にて語り部より話を聞きながら上野市内を探訪し、歴史・文化を研修するというものであった。

両会は当日午後二時半に菅原神社に集合し、まず正式参拝。そして開会の諸行事の後、参加者一同は二班に分かれ、語り部案内のもと市内の探訪へ向かった。最初のむらい萬香園という土産物店から養肝漬宮崎屋、かたやき煎餅の鎌田製菓、広澤組紐店まで、上野市の代表的な物産を守り伝えていく店を、店主の話



を聞きながら見学して廻った。業種はさまざまだが、のれんを受け継いでいる店主の熱い思いが感じられ、祖父から父、父から子へと技術が伝承されていく様が、その現場から窺われた。

研修終了の後、観光旅館ふじにて懇親会となった。氏青の方々はお酒が強いとの事前情報を受け会員諸氏は身構えていたが、案の定かなり手強い相手であった。しかし、これは単に酒が強いというのではなく、引き込まれるように自分からも飲んでしまふのだ。氏青の皆さんの神社に対する熱い思いと温かい人柄に、神青会員は感化され励まされるような思いを抱いた。はかなくも和やかな懇親の一時はあっという間に過ぎ、締め括りに両会の益々の発展と協力を誓い合い爽やかに合同研修会は終了した。

〔佐藤 記〕

### 神宮神道青年会との合同研修会

神宮神道青年会との合同研修会が三月十八日(木)午後五時より神宮司廳で行われた。今回は来年三月の神宮研修会に向けて、御遷

宮の御事のうち御装束神宝について、神宮司廳采野技師を講師に迎えての勉強会であった。講師は御装束神宝の調製を担当する神宮の重要な人物である。

御遷宮の本義について考えさせられたのが、御装束神宝奉製・調進の歴史である。律令制が機能していた時代には朝廷より本様使が差遣され、西宝殿の古神宝を検分した上で、京に戻り奉製が行われた、戦国時代の御遷宮中断、復興の後には本様使が差遣されることはなく、職人が世襲で奉製を担ったが、明治末には国の機関の中に担当部署が置かれ、御装束神宝の古儀について調査も行われ、昭和四年の御遷宮では当時考え得る最高の考証の下奉製が行われ、現行ではこの時のものがモデルになっているとのことであった。戦後は一宗教法人である神宮司廳内に神宮式年造管庁が設けられ、奉製を担当している。

御遷宮は、天皇陛下(＝国家)が行わせられる国の最重儀である。御装束神宝の奉製・調進の歴史は、御遷宮の本義が奈辺にあり、また如何に現今が本義とずれてしまっているかを物語っている。前回御

遷宮では、一部の代表的な御装束神宝を天覧に供することにより、御遷宮の本義を保ったが、国が調進し天皇陛下が御猷進あそばされるのが本来の姿であろう。我々神社人は、御遷宮完遂は勿論であるが、如何に本義に戻してゆけるか、考えねばならないと感じた。

また、講師は技師の立場として語られた。奉製者は技量だけでなく、心が大切であり、故田鏗勝三氏の例を挙げ、当代随一と自他共に認める奉製者も、奉製に当たっては一職人としての境地に立ってしまふというエピソードには、御料を奉製する重みを感じられた。また特殊な作業・材質を扱う奉製作業により、技術が伝承され、根付いているという御遷宮の一面を語られた。

他に代表的な御装束神宝をスライドにて拝見し、伝承された精緻な美に一同見入った。

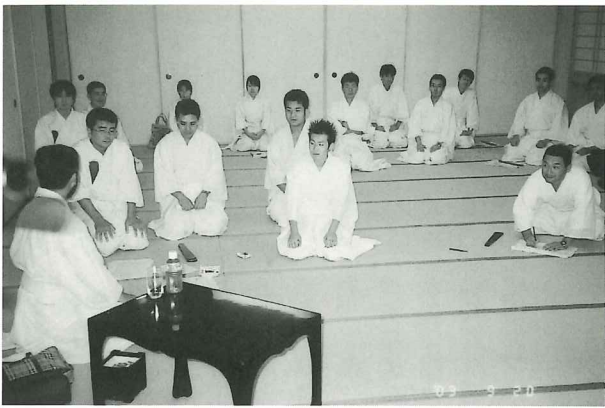
〔高橋 記〕

## ブロック研修会

昨年度より始まったブロック研修会は、「神葬祭」をテーマにして、普段神青の活動になかなか参加出来ない会員を対象に実施した。

### 北部ブロック研修会

九月二十日(土)、多度大社に於いて、増田秀樹神社庁祭式助教、種村睦神社庁地区祭式指導者をお招きし、北勢ブロックの会員二十一名が参加し開催された。当日は



祭壇の組み方から始まったが、組み方一つをとっても祭場の広さによって本義通りに組めない場合もあり、また地域によって多少違った組み方もあったりと、研究課題の多い祭儀であると感じた。また神葬祭は、普段あまり奉仕する機会のない者が多く、実際の様々な体験談等を聞く事ができ、これから奉仕していく者にとり貴重な知識になった。研修後、場所を移し懇親会が催され、同じ道を進む者同士話も尽きず、親睦も深まり、大変有意義な会になった。

〔冷泉 記〕

### 中部ブロック研修会

七月十二日(土)、三重県護国神社に於いて、馬場明德神社庁祭式講師をお招きし、会員十名が参加し研修会が開催された。はじめに講師から、突然の計報で時間の無い中でも、遺族との打ち合わせを十分に行い、執り進めなければならぬなど体験談をお聞きし、続いてビデオをみながら神葬祭の

細かい作法について説明して頂き、意見交換を行った。

今回の研修で、神葬祭は地域により多少作法が異なり、臨機応変な対応が必要だと感じた。また神葬祭を実際に奉仕した参加者は少なく、講師の体験談は貴重なものであった。

このブロック研修会は青年神職の輪を広げ、親交を深める目的で始められ、普段諸般の事情により神青の行事に参加できない青年神職の皆さんに、より多く参加して頂けるよう土曜・日曜の夕方に開催するように配慮している中で中部ブロックの青年神職の皆さん、お忙しいでしょうが是非一度ご参加下さい。

〔石上 記〕

### 南部ブロック研修会

八月九日(土)、玉城町の南勢ワークセンターに於いて開催された。会員の他に同センターの職員も参加し、総勢三十四名で「神葬祭」について研修会を行った。

講師に村田正和神社庁祭式助教、山路太三神社庁地区祭式指導者をお迎えし、先ず村田先生より神葬祭の意義とその問題点について講義頂き、次に南勢ワークセンター



の実際の祭場にて山路先生の奉仕体験談を踏まえた実践的なご指導を頂いた。

会員に於いても神葬祭奉仕の経験者は少なく、この研修会で改めて祖霊祭祀の重要性、及び神道の死生観を再認識し、これからの神葬祭をめぐる教会的問題、新たな葬祭事情と神社神道としての対応を考えさせられる有意義な研修会となった。

〔西村 記〕

来年度も実施しますので是非参加してみませんか。

## 神宮研修

—真姿顕現に向けて—

三重県神道青年会監事

葦津 健次郎

伊勢の神宮が宗教法人となり、六〇年近い歳月が流れた。その間、神道指令の強い影響を受けながらも、神社界は総力を結集して、三度の神宮式年遷宮を無事にご奉仕申し上げた。

神宮は、皇祖であり、我々の総氏神であらせられる天照大御神を奉斎するお宮である。

天照大御神から授けられた「八咫御鏡」を、御歴代の天皇様が「宝鏡奉斎の神勅」のままに祀られるお宮が伊勢の神宮である。

さらに我が国は、「斎庭稲穂の神勅」を授かり、その御教えのままに経済、文化を発展させ、「天壤無窮の神勅」のままに、一二五代の天皇陛下を奉戴し、他国に誇るべき建国二六六四年を今日幸福に迎えている。

日本の国が日本の国である所以、日本の国の根幹に関わる祭、天皇祭祀の場が伊勢の神宮なのである。一宗教法人と呼ぶにはあまりに無理があるご存在であろう。

昭和三五年、第三六臨時国会に、神宮の現状を遺憾とする人々の意を受けて、『伊勢の神宮に奉祀されている御鏡の取扱いに関する質問趣意書』が衆議院議員浜地文平氏より提出された。

この質問に対し池田内閣は、伊勢の神宮が天皇の皇祖を奉祀せられる起源沿革を有するところであり、天皇と神宮との関係は、永い歴史を通じ、歴代を経て今日に及ぶことを明示した。また伊勢の神鏡が、皇祖神授の御鏡であり、日本国天皇の皇位とともに伝わるべきものであるとの政府見解を確認した。

しかし一昨年、小泉首相は正月恒例の神宮参拝を、マスコミでさえ聞きもしないのに、敢えて「私的な参拝」と公言した。あまりに神宮を理解しない発言であろう。時の流れとともに、池田内閣の政府見解すら忘れ去ってしまったかと思われる発言である。

また平成五年秋、厳肅盛大裡に斎行せられた第六一回神宮式年遷宮遷御の儀を振り返ってみると、実況放送したテレビ局は、地元三重テレビだけという状況であった。神宮式年遷宮は、古来、畏れ多

くも「皇家第一の重事、神宮無双の大宮」と称される、国家の重儀であるはずなのに、この国民の反応はどうであろうか。

残念ながら国民の関心の低さ、我々の教化不足が伺える。

我々神社界の先輩方は、戦後三度のご遷宮に全力でご奉仕申し上げた。その結果として、式年遷宮の古制を護持し得た。社殿や神宝・装束などを作る優秀な人材と高度な技術が継承されてきたことや、社殿を造替するための檜を育てる植林の重要性、日本の文化伝統の素晴らしさなどの「外面的部分」を広く国の内外に知らしめ、ご遷宮の古儀をお護りすることができた。諸先輩方の並々ならぬ努力の賜物であろう。

我々が先輩方に続き、次期ご遷宮に対する活動を行うにあたって、その皮切りとも言える「神宮研修」において是非とも考えなければならぬことは、「内面的部分」、なぜ一三〇〇年にもわたりご遷宮が行われ続けたのか、日本国家にとって神宮とは何か、という重い問いと解答を如何に国民に伝えるかであろう。神宮の真姿顕現の第一歩として。

## 編集後記

皆様のおかげで本年も『神葉』を発行することが出来ました。有難うございます。神道青年会の多彩な活動を紹介させて頂きました。

来年三月は三重県神青担当にて神宮研修会が開催されます。折から神宮では、この平成十六年は「遷宮元年」と称し、前回の例によりますと、「遷御の御準備を大宮司の責任において取り進めるべし」との御聴許を賜る年であると承っております。神宮のお膝元である三重県神青として、次期式年遷宮への第一歩である神宮研修会を成功させねばなりません。今回は特にその点を意識し誌面作りをさせて頂きました。今後とも皆様のご協力をお願いいたします。

〔高橋〕

会報「神葉」

第30号

平成16年3月31日

発行者 中野雅史

編集 総務広報委員会

発行所 津市鳥居町210-2

三重県社庁内

三重県神道青年会